



〈研究〉アントン・メンガー新國家組織ノ經濟的基礎

山口, 正太郎

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 30(4):600-612

(Issue Date)

1921-04

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053304>



研究

アントン・メンガー—新國家組織ノ經濟的基礎

同志社大學教授

法學士 山口 正太郎

一 序 言

アントン・メンガーハ其名著「勞働全收權論」Das Recht auf den vollen Arbeitsertrag ニヨツテ社會主義ノ法理的的研究者トシテ、且ツ生存權、勞働權、勞働全收權ノ主張者トシテ社會思想發達史上重要ナ人物デアルコトハ夙ニ我國ニ於テモ認メラレテキル。茲ニハ氏ノ主張セントスル民衆的勞働國家ノ内容ヲ明瞭ニ論述セル「新國家論」Neue Staatslehre 3. Aufl. 1906 ヲ主トシ前著ヲ參考シツ、氏ノ新國家ノ經濟的基礎ヲ叙述シテミヨウト思フ。

二 新國家建設ノ氣運

國家ハ之ヲ分チテ個人主義的國家 der individualistische Staat ト社會主義的國家 der sozialistische Staat トナスコトガ出來ル。前者ニアツテハ其國家内ノ勢力者ノ個人的利益ガ國家ノ活動ヲ支配シテ弱者ハ毫モ國家ノ行動ニ關係ガナイ。今日ノ國家ノ行動ハ勢力アル者ノ地位、勢力ヲ維持シ發展

セシムル目的デ働イテキル、戰爭、外交等ノ事務ノタメ國家ノ支出ノ大部分ガ費サレテキルノハ明カニ支配者階級ノ勢力擁護ノ事實ヲ語ツテキル。個人主義的國家ニ於テハ有産者ノ財産保護ガ厚ク出來ルダケ有産者ニ有利ニナルヨウニナツテキル、現時ノ司法及行政ノ大部分ハ此目的ノタメ働イテキル、又經濟上ノ活動ガ私法ノ範圍内ニ於テ自由ニ放任サレテキルノハ斯クスルコトガ却テ國家ガ干渉スルヨリモ有産者ニトツテ經濟的利益ノ獲得ニ便利デアルカラデアル。(Vgl. Anton Menger, Das bürgerliche Recht und die besitz losen Volksklassen, 2 Aufl. 1890. Nr. 37, 40)

社會主義的國家又ハ民衆的勞働國家 der volkstümliche Arbeitsstaat ハ之ニ反シテ民衆ノ利益ガ國家活動ノ目標トナルノデ有産者ノ利益ト國家ノ利益トヲ同一視スル事ヲ許サレナイノデアル。然ラバ民衆ノ利益ハ何ゾヤト云フニ其ハ佛蘭西革命ノ人々ガ考エタ如ク政治的ナモノデハナイ、政治ニ參加スルコトハ無産者階級ニトツテハ目的ヲ達スル一ツノ手段デアツテ目的ノモノハ(一)個人的存在ノ維持及増進 die Erhaltung und Förderung der individuellen Daseins (二)種族ノ繁殖 die Fortpflanzung der Gattung (三)生命及健康ノ安全 die Sicherheit von Leben und Gesundheit デアル。充分ナル衣食住、精神的欲望ノ満足、愉快ナル家族生活等ハ誰デモ求メル目的デアリ且ツ求メザルヲ得ナイ Anstrebt und anstreben muss モノデアル。現今ノ社會ニ於テハ之等ノ事ハ私法ノ範圍内ニ於テ各人が自己ノ力ヲ以テ爲サネバナラス事務ト認メラレテキルガ茲ニ現社會ノ根本的大缺陷ガ潜在スルノデアル。斯クテ我々ハ民衆ノ利益ガ國家ノ行動ト一致スルヨウナ國家組織ヲ欲スルコトハナル。(Neue Staatslehre, S. 16—21)

三 共產主義及ビ無政府主義トノ差異

民衆の勞働國家デハ個人ノ存在ニ必要ナ外界ノ事物ハ國家又ハ國家的團體ニ屬スル。即チ私有權ノ社會化ガ行ハレル。乍然持續シテ使用シ得ラレル財 *die benützbare Sachen* ト生産手段 *Produktionsmittel* トハ私有ノ目的トハナラナイガ直チニ個人ノ使用ニ充テラレ從テ極ク間接ニシカ社會全體ノ利益ト關係ノナイ所謂消費財 *die verbrauchbare Sachen* ノ私有ハ之ヲ認メル。土地、資本ノ私有ヲ禁ズルカラ經濟上餘程平等トナルガ乍然消費財ノ私有ヲ認メルカラ此方面デ經濟上ノ不平等ガ成立スル。消費財ノ平等ヲ主張スレバ茲ニ共產主義ヲ生ズル。(S. 22—27)

次ニ民衆の勞働國家モ亦國家デアル限リ次ノ疑問ヲ生ズル、其ハ抑モ人類ノ平和ナル共同生活ニ國家ナルモノハ果シテ必要ナリヤト云フコトデアル。必要ナラズトスル時ニ茲ニ無政府主義ヲ生ズル。無政府主義ニ二種アル。(一)前期、經濟上ニ於テ私有權ヲ認ムルモノ。(二)後期、一切ノ財ノ公有ヲ主張スルモノ、即チ共產主義的ナルモノ之デアル。前述セル處ニヨリ民衆の勞働國家ハ私有權ヲ非常ニ制限スルコトニヨツテ第一種ノモノト異リ消費財ノ私有權ヲ認ムル事ニヨツテ第二種トモ異ル。更ニ又國家若クハ國家的團體ヲ認ムル事ニ於テ無政府主義ト根本思想ヲ異ニスルノデアル。國家ノ強制ヲ認メナケレバ職業ノ撰擇ノ際ニ如何ニスルノデアルカ、果樹ヤ花卉ノ栽培、音樂ノ如キ愉快ナ職業ニハ志望者ガ多ク道路掃除、燐寸工場ノ如キ勞働ハ志望スル者ガ無カロウ。茲ニ於テ將來ノ社會トシテハ無政府主義ノ社會ニハ全然反對セザルヲ得ナイ。(S. 6—15)

四 新國家ト利己心

社會主義者ハ人間ノ性質ハ本來善良デアルガ社會組織ノ缺陷ニヨツテ現今ノ如ク墮落シテキルノデアルカラ社會組織ノ根本的改造ニヨツテ人間本來ノ善良ナル心ヲ發揮セシメレバヨイト云フ。乍然文明ハ多クノ犯罪ヲ生ンダガ、野蠻未開ノ人種ヲ研究シテ見テモ文明人ニ劣ラズ我慾ガ強ク殘忍デアル、デアルカラ如何ナル社會制度ノ下デモ人間ハ利己心ノ強イモノデアル。

社會主義者ハ今日ノ國家秩序ニ於テ人々ハ利己心ナル根本衝動ニ支配サレテキル如ク社會主義國家ハ、友情連帶愛他等ノ衝動ノ上ニ建設サルベシト云フ。乍然社會組織ヲ變更スルコトニヨツテ人間ノ根本衝動ヲモ大ニ變更シ得ルモノト思フノハ謬見デアル。各人ハ各自ノ肉體ヲ以テ苦痛、快樂ヲ直接感ズル小世界ヲ組織シ他人ノ苦痛快樂ハ極ク間接ニシカ自己ニ感ゼナイ狀態デアル。限り利己心ハ最も重要ナ衝動トシテ永續スルニ違ヒナイ。人間ノ心情カラ利己心ヲ絶滅セシメヨウトスルノハ夢想デアル。健實ナ國家組織ハ利己心ヲ認メネバナラヌ。唯利己心ノ方向ヲ誤ラナイヨウニ導ク必要ガアル。社會主義組織ニ於テ人間ノ道德的再生ガ認メラレナイカラ民衆の勞働國家ニ於テハ献身、友愛等ノ感情ヨリモ寧ロ利益ノ合理的の均分ヲ問題トスベキデアル。(S. 51—54)

五 自由ト平等

自由トハ自己ガ撰ンダ目的ヲ障害無ク追求シ得ル各人ニ與エラレタ可能性ヲ云フ、國家組織ノ問題ニ關スル自由ハ(一)政治上ノ自由 (二)經濟上ノ自由ノ二ツヲ主トスル。政治上ノ自由ハ更ニ二ツ

ニ分タレル。(一)各人ガ自己ノ目的ヲ達スル場合ニ國家ノ制度ニヨツテ妨害サレナイコト。(二)國家ノ政治ニ民衆ガ參與スルコト。即チ參政權ノ行使之デアル。民衆の國家ニ於テハ現今ノ所謂個人の權力國家ノ場合ヨリモ遙カニ政治上ノ自由ハ認メラレネバナラス。經濟上ノ自由ニ就テハ之ヲ富者ノ方面ト一般民衆ノ側トハ異ツテ觀察セネバナラス。富者ノ側ニ於テハ今日ノ經濟上ノ自由ヲ認メル時ハ其橫暴ハ益々激シクナルデアロウ、民衆の勞働國家デハ富者ノ經濟上ノ自由ハ著シク制限セラレネバナラス。乍然一般民衆ノ側カラ見ルト現今ノ社會ハ法律上奴隸體僕ハ廢止サレタガ事實上ニ於テ資本家ニ從屬スルコト恰モ奴隸ニ於ケルガ如クデアル。ロードベルトスハ曰ク「今日ノ個人ノ自由ハ一般民衆ニトリテ土地所有者ヤ資本家ノ意思道德ニ服從セル限リ何等ノ意義ガナイ」ト Robertus, Das Kapital, S. 216) 此意味ニ於テ民衆の勞働國家デハ一般民衆ノ經濟的自由ハ確保サレ同時ニ勞働權ヲ認メネバナラス。(Anton Menger, Das Recht auf den vollen Arbeitstag 2. Aufl. S. 15. Neue Staatslehre, S. 60—63)

經濟上ノ平等ハ社會主義者ノ目標タルカノ感ガアル殊ニ佛蘭西革命以來平等ノ觀念ハ著シク人々ヲ刺激シタノデアルガ、乍然經濟上ノ完全ナル平等ハ無政府主義ノ社會組織ノ下ニ於テ行ハルコトデアツテ民衆の勞働國家デハ完全ナル經濟上ノ平等ヲ認メナイノデアル。(一)支配者ト被支配者、行政者ト被行政者ハ常ニ對立スル。民衆の勞働國家デモ此對立ハ現在ノ國家ニ於ケルト異ラナイノデアル。支配者ハ己ガ優越セル力ヲ外部ニ表ハスニハ先ヅ經濟上ノ生活ヲ以テスルコトハ、何時ニ於テモ同ジコトデアル。(二)民衆の勞働國家ニ於テモ智識階級ハ經濟上ノ不平等ノ根源トナル。經濟上ノ

完全ナル平等ハ必ズヤ智識階級ヲ壓迫スルコト、ナリ文明ノ進步發達ヲ阻害スルコト、ナル。從テ民衆の勞働國家ニ於テハ智識階級ノ優越ト經濟上ノ不平等ハ認メネバナラス。(三)人間ノ勞働ノ分量技巧ニハ差違アルコト、從テ勞働ト其報酬トノ關係ニ種々ノ相違ヲ生ズルコト。(四)民衆の勞働國家デハ從來支配者階級ノ利益ハ漸次度外サレルコトニナツテ勞働者階級ノ利益ガ増進スル。即チ經濟上ノ不平等ハ此意味ニモ行ハレル譯デアル。

經濟上ノ平等ガ行ハレル時ハ經濟狀態ノ改良ガ行ハレナイデ一般民衆ハ宗教上ノ寂靜主義ニ陷ツタ様ニナリ民衆の勞働國家ハ必竟食糧國家即チ單ニ食物ノ配給ヲ顧慮スル國家ニ墮落スル惧ガアル。經濟上ノ自由ト平等トガ伸張サレタ時ニハ職業ノ撰擇ハ如何ニスベキデアルカ、誰ニシテモ不潔ナ不健康ナ職業ヲ好ムモノハ無カロウ。民衆の勞働國家ハ大略五ツノ目標ヲ以テ職業ヲ定メル。(一)親ノ職業。子供ハ家ニアツテ親ノ職業ヲ見慣レテキルカラ全然違ツタ職業ニ就カシメルヨリハ能率ガ上ル利益ガアル。(二)高等ナル精神の職業ニ就テハ一定ノ國家試験ヲ通過シタモノ、ミニ之ヲ許スコト、スル。(三)選舉。指導的地位ニ立ツ職業ニ就クモノハ之ヲ民衆カラ選舉スルコト、スル、之ハ今日政治上ニ多ク行ハル、方法デアル。(四)任命。國家又ハ團體ノ權威者ガ適所ニ適材ヲ任命スル方法デ職業ヲ定メル。之ハ被任命者ノ才能ヲ任命者ガ知ル點デ選舉ヨリ良イガ乍然任命者ノ個人的興味等ノタメニ甚シキ危險ヲ伴フコトガアル。(五)抽籤。之ハ最後ノ方法デアルガ、昔アゼンスデハ官吏ノ職務ニ就テ抽籤ガ行ハレテキタコトガアル。

以上ハ職業ノ撰擇デアルガ之ハ經濟上ノ不平等ヲ認メテキルカラデアルガ民衆の勞働國家デハ不

平等ト云ツテモ現今ノ國家ニ於ケル富者ト貧者トノ對立ノ如キ不平等ハ存在セナイコトニナルデアロウ。(S. 64—72)

六 所有權、相續權

社會主義者ノ重大ナル任務ノ一ツハ私法ヲ公法化スルコトデアル。私法ノ領分ヲ縮少シテ公法ヲ以テ之ニ換エ、今日ノ意味ニ於ケル公法私法ノ對立ヲ漸次消滅セシメルコトデアル。社會制度上最も密接ナル關係アルハ私法中ノ所有權ノ問題デアル。現今ノ所有權ハ所有者ガ其所有ノ對象ニ無制限ノ支配ヲ有ストナス羅馬法ニ源ヲ發シテキル。基督紀元四百年迄ハ伊太利ノ土地所有者ハ國家カラ其收益ニ就テ何等ノ土地課稅ガ無カツタカラ所有者ハ土地ニ對シテ絶對的ノ支配權ヲ行使シ得タノデアル。(Mommesen, Römische Staatsrecht II, 2. S. 944) 現今ノ所有權ハ此絶對的支配ノ思想カラ出テキルガ其後國家行政ノ發達ト共ニ所有權ハ制限セラル、ニ至ツタ、一面水道、衛生、道路、建築等一般民衆ノ安寧ニ關スル警察ノ發達ハ個人ノ所有權ヲ制限スルト共ニ他面所有ニ基ク收益ニ課稅スルコトニヨツテ間接ニ所有權ヲ制限シテキル。乍然之等ノ制限ニシテモ甚ダ輕イモノデアツテ支配權トシテノ所有權ノ思想ハ少數有產者階級ノ利益ノタメニ今猶、重大視サレテキル。恐ラク社會生活ガ存續スル限リ所有權ノ思想ハ根絶スルコトハナイノデアロウ。社會主義者ノ多クガ稱ヘル如キ所有權ノ絶對的廢止ハ俄ニ贊成シ能ハヌ處デアルガ所有權ガ漸次制限サレテ今迄ノ少數有產階級ノタメデアツタモノガ一般民衆ノ利益ノタメニナル様ニ變更サル、コトハ新社會建設ニトリテ第一ニ必

要ナ事デアル。

相續權ハ所有權ヲ前提トシタモノデアルカラ所有權ガ制限セラルレバ相續權モ亦同ジ程度ニ制限セラレネバナラス。民衆的勞働國家ニアツテハ生産手段ト持續財トノ私有權ハ認メラレナイデ唯消費財ノ私有ノミガ認メラル、カラ相續權ハ此範圍内ニ於テノミ存在スル譯デアル。長子相續ハ認メナイデ子供ノ數ニ應ジテ等分ニ分配サレ、子供ノ無イ時ハ被相續者ノ任意ニヨルガ相續者ノ範圍ハ子供、兩親、兄弟姉妹ニ限ラレ之等ノモノ、無イ時ハ國家ガ相續スルコト、ナル。(Saint-Just, *Fragments sur les institutions républicaines*, S. 58)

七 契 約 法

民衆的勞働國家ニ於テハ國家ノ目的中最モ重要ナルハ一般民衆ノ經濟上ノ生活ノ安定ト云フコトデアル。現今ノ私法契約ニ於テハ個人ノ意思ガ勢力者ノ意思ノタメニ壓迫サレテキル。勞働雇傭契約ハ資本家ノ意思ニ盲從スルコトデアル、之ハ一般民衆ノ生活ノ脅威デアルカラ民衆的勞働國家ニ於テハ私法上ノ雇傭契約ハ排除セラレテ公法上ノ契約ガ締結セラレルコトニナル、從テ之ヨリ生産者ノ債權關係ハ國家又ハ國家的團體ト各個人トノ間ノ關係トナルデアル。次ニ賣買契約ニ就テハ社會主義者ハ此契約ヲ以テ貨幣經濟ノ特徴デアルトナシ金屬貨幣ヲ廢シテ勞働貨幣ヲ以テ之ニ代ラシメヨウトスル、例ヘバロバート、オウエンハ勞働銀行ヲ設立シテ生産者ハ其生産物ヲ該銀行ニ持チ行キ其生産ニ要シタ勞働時間ヲ標準トシテ勞働貨幣ヲ與エ其勞働貨幣ヲ得タ者ハ又其銀行カラ他人

ガ生産シタモノデ自分ニトリテ必要ナモノヲ購フコトヲ主張スル、ロードベルトスモオーウエント同ジ様ニ勞働貨幣ヲ主張シテキルガ氏ハ勞働收益ノ全部ヲ勞働者ニ歸屬セシメナイデ其中一割ハ國家ニ、參割ハ地代ニ、參割ハ資本ノ利子ニ、残りノ參割ヲ勞働者ニ與フベシト云フ。兎ニ角現今ノ契約關係ノ變更ヲ主眼トシテキルガ單ニ契約關係ノ變更ノミデハ不充分デアツテ國家又ハ國家的團體ノ權力ノ仲介ヲ必要トスル。勞働貨幣制度ニシテモ國家的の制度ヲ必要トシ單ニ個人ノ契約ダケデハ財ノ分配關係ハ圓滿ニ行クモノデハナイ。從テ多クノ社會主義者ノ主張ハ民衆的勞働國家ノ建設ニ變化シテ來ナケレバナラス(A. Menger, S. 108—120)

八 主觀的分配原理ト客觀的分配原理

前者ニ於テハ財ノ分配ハ各人ノ欲望ヲ基礎トスル。年齡ニヨリ性ニヨリ教育ノ程度ニヨリ分配額ヲ異ニスル。後者ニ於テハ生産勞働ノ分量或ハ質ノ如キ客觀的標準ニ從ツテ分配サレル。共產主義ハ生産勞働ノ如何ニカ、ワラズ各人ノ欲望ヲ基礎トシテ分配額ヲ決定スルガ、社會主義——本來ノ意味ノ社會主義即チ經濟上ノ不平等ヲ認ムルモノ——デハ主觀的原理ト客觀的原理トヲ合セ用イテナル。

主觀的分配原理ニ基ク時ニモ二種アル、(一)分配ガ當事者ノ隨意ニ行ハレ何等ノ權威ノ干涉ヲ要セザルモノ、(二)國家ニヨル分配制度、之デアル。前者ニ於テハ各人ハ自己ノ欲望ニ從フテ自由ニ欲スルダケ財ヲ得ルコト恰カモ現時ニ於テ空氣、河水、海水等ガ自由ニ且ツ欲スルダケ得ラレル如クデ

アル。公園、街路、港灣等ハ現時デモ一定ノ制限内デハ自由ニ欲スルガマ、ニ使用シ得ラル、。民衆的勞働國家デハ此種ノモノハ益々増加スル譯デアルガ、乍然全然各人ガ思フマ、ニ使用シ消費シ得ルニハ友愛ト犠牲ノ數百年ニ亘ル教育ガ必要デアル。今日客ニ差出ス御馳走ハ客ノ欲スルマ、ニ取ラシムルノデアルガ之ヲ民衆的勞働國家ニ於ケル總テノ事柄ニ及ボサシムルニハ利己心ノ極端ナル制限ヲ要スルカラ中々急ニハ出來ルコトデハナイ、後者即チ國家ニヨル分配制度デハ各個人ハ人ラシキ存在 Menschenwürdige Existenz ヲ維持スルニ必要ナダケハ絶對ニ國家ニ要求スルコトガ出來ルト共ニ他人ガ此狀態ニアル時、自己ノ生存外ノ要求ハ之ヲ見合シテ他人ノ生存ノ欲望ヲ先ヅ充サシムルコトヲ要スル。此生存維持ニ必要ナルモノヲ要求スル權利ヲ生存權 Das Recht auf Existenz ト云フ。(Menger, Das Recht auf den vollen Arbeitsertrag. S. 8—11) 一般民衆ノ生存權ノ要求ガ充サレテ後、初メテ高等ナル階級ノ文化的欲望ガ充サレル。乍然此際デモ民衆的傾向ハ生存權ノ要求ヨリ以上ニ非常ニ馳ケ離レタ贅澤ナ欲望ヲ認容セナイ。

民衆的勞働國家デハ不法行爲ニヨル損害賠償ハ勞働時間ヲ延長セシムルカ。欲望充足手段タル財ノ分量ヲ減少スルカニヨルノデアル。次ニ各人ガ高等ナル欲望ヲ満足セシムルタメ規定ノ時間以上ノ勞働ヲ欲スル時ハ如何ニスベキデアロウカ。ワイトリング Weiting ノ提案ニヨレバ人間ハ一日六時間ノ勞働デ生活必要品ヲ給與セラレル。之以上勞働スル時ハ其ニ應ジテ一層高等ナル欲望ヲ充スコトヲ得ル。(Weiting, Garantien der Harmonie und Freiheit. 3 Aufl. 1849. S. 193) 民衆的勞働國家ニ於テモ亦規定以上ノ勞働ニヨツテ高等ナル欲望ヲ充スコトヲ得セシメナケレバナラヌガ一面ニ

於テ該國家ハ其基礎ニ於テ民衆的傾向ニ立脚シテキルコトヲ忘レナイデ假令個人ノ非常ナル勉勵ニ
ヨルモ多額ノ欲望充足手段ガ個人ニ堆積セラル、コトヲ忌ミ嫌ハネバナラス。恰モ現今ニ於テ個人
ニ土地ヤ資本ガ堆積セラル、コトヲ排斥スル様ニ。(Mayer, Neue Staatslehre, S. 95 — 103)

客觀的分配原理ヲ採用スルニハ土地及ビ資本ハ國家ニ屬スルコトヲ要スル。此分配原理ヲ認ムレ
バ他面ニ勞働全收權ガ必ズ伴ハレネバナラス (Das Recht Auf den vollen Arbeitsertrag S. 6 — 7) 此
原理ノ下デハ金屬貨幣ノ代リニ勞働貨幣ガ用ヒラレルガ此際標準トナル勞働ハ平均勞働 Durchsch-
nitsarbeit デアル。從テ個人ガ事實上費シタバケノ勞働時間ガ標準トナルノデハナクテ中等ノ勤勉
ト中等ノ素質ヲモツ勞働者ガ要スル時間ヲ標準トスルノデアル。乍然此標準モ生産力ノ變更ニヨツ
テ時々變更セナケレバナラスノデ國家ハ常ニ標準表 Tarif ヲ改正スルコトヲ怠ツテハナラナイ。此
點ニ關スルロードベルトスノ所說ニ就テハ小泉信三氏稿「ロードベルトスノ經濟學說補遺」(二三田學
會雜誌十五卷二號三〇頁參照) 此分配原理ヲ認メ且ツ勞働全收權ヲモ認容スル時ハ勞働シ得ル人ハ
可イガ病氣、老齡等デ勞働不能ノ人ハ別ニ取扱ツテ保護セナケレバナラス必要ガアル。(Neue Staats-
lehre, S. 104 — 107)

九 地方團體社會主義

所有權ノ主體ヲ國家タラシムル時ニハ國家社會主義 Staatssozialismus ヲ生ズルガ民衆的勞働國家
ニ於テハ所有權ノ主體デアリ經濟行爲ノ中心デアルモノハ地方團體デアル。乍然經濟關係ノ中デモ

必然的ニ國家ノ地域ニ擴ガレルモノ例ヘバ郵便電信電話、鐵道ノ如キハ國家ガ中心タルベキモノデアル。

フリーエ Fourier ヤオーウエン等ハ約二千人ノ團體ヲ以テ所有權ノ主體、經濟行爲ノ中心トシテキル。然シ民衆の勞働國家デハ斯ク少サク區劃スル必要ハナイ。地方團體社會主義ニ於テハ國家社會主義ニ於ケルヨリモ勞働ト其報酬トノ間ノ關係ヲ適當ニ處理スルコトガ出來ル。地方團體ニ所有權ヲ歸屬セシメタカラトテ之ニ統治權ヤ立法權ヲ與エル必要ハナイ。之等ノ權利ヲ附與スル時ハ徒ラニ中世ニ行ハレタ國家ノ分裂狀態ヲ惹起サシムルコト、ナルカラデアル。

十 勞働團體

個人ト地方團體トノ中間ニ經濟行爲ヲ行フニ就テ必要ナ團體ガ存在セネバナラス。例ヘバ大都市ニ於テハ其下ニ存在スル多クノ職業ヲ統轄シテ行クコトハ容易デナイカラ同ジ職業ニ屬スル人々ガ勞働團體ヲ組織シテ事務ヲ取ルガ便利デアル。勞働團體ニハ所有權ハ歸屬セナイデ其主體ハ猶且、地方團體デアル、勞働團體ハ公法的性質ヲ有シ地方團體ノ命令ニヨツテ組織サレ或ハ解散セシメラレル。此勞働團體ノ首領ハ地方團體ニヨツテ任免セラレル。此等ノ點デルイブラン Louis Blanc ヤラッサール Lassalle ノ勞働者團結 Arbeiterassoziation ト異ツテキル。此ラッサール等ノ勞働者團結ハ全ク任意ニ出來上ツタモノデ何等ノ外部ノ權力ニヨツテ強制的ニ生ジタモノデハナイ。其上此團結ハ所有權ト經濟上ノ主體デアツテ強イ力ヲモツテキルガ其團結ノ意思決定ハ會員ノ意思ニヨツテ

定マルト云フ民衆の傾向ヲ發揮シテキル。勞働團體ニ權力ヲ附與スベキヤ否ヤハ一ツノ問題デア
ルガ之ハ附與セナイ方ガヨイ。蓋シ團體ニ附與スル時ハ各團體ガ爭フコトニナルカラ之等ノ團體ハ上
級團體タル地方團體ノ力ニヨツテ統轄セラル、ガヨイノデアアル。(Neue Staatslehre, S. 119—203)

十一 結 論

以上述べ來リタル處ヲ見ルニ、メンガーノ所論ハ甚ダ穩健デアツテ、吾人ノ活動的衝動タル利己
心ノ根絶ヲ信ゼズ且ツ個人ノ所有權ヲモ全然否定セズ、而カモ新國家ヘノ轉移ハ徐々ニ私法的權利
ヲ公法化スルニヨツテ行ハルトナシ、其新國家ニ於テモ、強制、命令等ノ權力關係ヲ幾分認メテキ
ル。私法ノ公法化ヲ力説スルノハ氏ガ法理學者デアルカラデモアロウガ氏ハ唯物史觀ニハ賛成セナ
イコトハ次ノ言デ窺ハレル。宗教、國家制度、經濟ハ人間行爲ノ根本的規定デアツテ實際生活ニ於テハ
此三者ハ交互ニ働イテキルモノデアアル。原始國民ニアツテハ宗教ガ他ノ二者ヨリ有力ニ作用シテキ
ル。又十九世紀ニ於テハ、ハブスブルグ家、ホーヘンツォレルン家、ポナバルト家ノ政治的權力ガ
其時代ノ國民經濟ヨリモ實生活ニハ強キ影響ヲ與エテキル。(Neue Staatslehre, S. 226.)之等ノ言ニヨ
ツテ氏ハ唯物史觀ノ賛成者デバナイコトガ分明デアアル。從テ氏ノ新國家ハ英佛ノ社會主義者ガ唱フ
ル如キ經濟學的社會主義國家デハナクテ精神生活ノ全體、即チ哲學、法律、道德、藝術、文學等ノ諸方面
ニモ社會主義精神ノ旺盛スルガ如キ國家デアアル。(Neue Staatslehre, Schlusswort S. 254) (完)